

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503130		
法人名	(株)アサヒライフコーポレーション		
事業所名	グループホーム憩		
所在地	福山市山手町1385-1		
自己評価作成日	平成30年1月23日	評価結果市町村受理日	平成30年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台31-34		
訪問調査日	平成30年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旧山陽道に面し周囲には田園が広がり、穏やかな風景と自然に恵まれた環境の中に「グループホーム憩」があります。近隣には、保育所や小・中学校、公民館などがあり地域、町内行事を通じて地域の人々との交流を図り、その関わりを大切に育てています。私たち職員は「心の繋がり」を大切にしながら、入居者様がその人らしい笑顔と尊厳に満ちた日々を送っていただけるよう、一人ひとりに応じた医療体制を整え、憩での生活が安心して穏やかなものになるよう努めております。同じ敷地内にある小規模多機能ホーム風花の皆さんと共に、地域の方たちの交流の場、情報の交換や発信の場に成れるよう頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は田畑が点在する住宅街の中にあり、利用者が四季の移ろいを感じたり、日々の散歩にも好適である。優れている点として、介護計画の長期目標と短期目標、取組の具体が連鎖し、確実な振り返りをしていること。地域との連携が細やかで、運営推進会議には多くの参加者があること等がある。工夫点として、利用者一人ひとりの現状を細やかに把握し、食事形態や入浴時間帯を柔軟に対応していること。また、ケアの記録は手のあいた職員が記録するなど、職員が無理なく・無駄なく動いて利用者のケアに当たっていること。転倒による利用者の怪我を防ぐために、居室やトイレ等の手すりにカバーを付け、クッション性のある敷物を広く敷いていることがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をサービスの基本とし、理念を目標にケアの実践が出来るよう、スタッフルームの職員がいつも見える場所に掲示し、より良いケアの実践に繋げている。	各ユニットのスタッフルームや台所など、職員の目につきやすい場所に掲示することで共有している。毎日の申し送りや月に一度のミーティング時には必ず振り返り、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、地域の活動や、行事には積極的に参加している。職員は近所の方たちと顔馴染みになっており、挨拶や、声掛けのしやすい関係を築いている。	町内会に加わり、職員が交代で地域の福祉を高める会が主催する行事等に参加している。秋祭りには事業所の前でも跳ね踊りが実施されるなど、日常的に交流している。また、日々の散歩で言葉を交わしたり、中学生の慰問も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月毎に開催する運営推進会議において、入居者様や施設の運営状況を報告すると共に、勉強会や意見交換、情報交換を行っている。年に1～2回は地域の方を招き施設の見学会を実施している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	問題店、課題点を含めて運営状況の報告を行い、出席者の立場や業務を踏まえて話し合い「皆で支えあう」施設・地域づくりを目指している。	介護福祉課、包括支援センター、町内会長、民生委員、福祉を高める会等が参加し、2ヶ月に一度開催している。内容は利用状況、地域町づくりの活動報告等で、出された意見は移動図書館の利用や体操の内容に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福山市の生活福祉課、障害福祉課、介護保険課との連携により、生活保護受給者を含む、入居者様の関わる自立支援医療費、障害者手帳、介護保険などに関する様々な生活支援の充実を図っている。	管理者が中心となり、日常的に生活福祉課、障害福祉課、介護保険課等と連携し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様一人ひとりの意思を尊重し、尊厳を守る事がケアの基本であり「声掛けひとつでも身体拘束になりうる」ことを念頭において業務にあたるよう心掛けている。ミーティングや個別指導の場で全ての職員が等しく理解するよう努めている。	月に一度、リスクマネジメント研修を実施し、該当する具体的な行為等について研修し、拘束の必要のないケアに努めている。言葉についても、その都度、職員同士で注意し合って防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は日々の申し送りやミーティングなどで、見過ごしや行き過ぎのないよう検証し、防止に努めている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	他の事業所や医療機関、家族と連携をとりながら、個々の利用者に即した対応をとっている。成年後見人制度や自立支援医療、社会福祉協議会の「かけはし」など、実際に活用しながら職員にも説明指導している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前や契約時に説明を行い、問題点については出来るだけ入居前に解決策、対応を話し合い安心して入居されるよう努めている。解約の際にも退去後の不安や疑問を解消するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様や家族からの意見や要望は、申し送りと記録により、職員が共有理解し、直ぐ出来ることは直ぐに対応している。内容に応じ家族、入居者も交えて話し合い、入居者にとって、より良い施設の運営に繋げている。	利用者は寛げる時間に、家族は面会時等を中心に意見を聴くようにしている。出された意見は職員間で共有するとともに、家族とも十分話し合っ、墓参りや身辺の整理等に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は個別、日々の申し送り、ミーティングなど様々な場面で意見や提案を受けており、必要に応じて月に2回ある本社の定例会議に取り上げ反映させている。	管理者と職員はフランクに話し合える関係を築き、日々のケアやミーティング時等に意見を聴いている。利用者の状況に応じて、勤務時間帯を変更するなど職員の負担を軽減するとともに、効率的な働き方に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は役員、施設長、管理者、主任などで構成される定例会議を月に2回開催。各事業所の運営に関わる問題を取り上げ話し合っている。各管理者、主任を対象とした勉強会を企画し、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加の奨励と共に、事業所間での合同勉強会を企画している。個別には管理者、副管理者、主任が指導に当たっている。昨年度から喀痰吸引1号研修の受講を開始している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所間交流会や勉強会、イベントへの参加や招待をしながら交流を深めおり、利用者情報の共有に結びつき、地域事業所全体でのサービスの向上に活かされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に関係者、本人から情報収集を行い、職員が共有しスムーズな入居に備えている。入居が決定した時点で、訪問・招待を重ね馴染みの関係づくりを始め、安心して新生活に溶け込めるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人に対する家族の思いや要望、施設に対する要望や期待を聞いた上で、施設、医療機関、家族がその人を支えてゆく、という共通の目標を持つことにより、良い関係作りに繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族の現状をよく理解してうえで、入居に際し、又入居後の生活について医療機関や地域資源を含めた最善のサービス提供ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者がそれぞれの嗜好や能力にあった役割作業(洗濯物干し、たたみなど)のし易い雰囲気作りをしている。職員がその都度、感謝の気持ちを伝えることで、一緒に暮らし支えあっている…関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時や、担当職員による毎月の手紙で入居者様の月毎の生活状況を伝えている。その中で誕生日会や外出イベントなどへの参加を呼びかけたりして、家族と一緒に過ごす機会を増やせるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人や家族から話を聞き、家族の協力を頂きながら、馴染みの人や場所との関係の維持に努めている。また、気軽にたちよれる、来訪しやすい雰囲気作りを心掛けている。	一人ひとりの状況に応じて、近くの公園や商店など馴染みの場所に出かけたり、知人等の面会時には関係が継続するよう、言葉をかけている。また、家族には毎月、担当者が手書きで利用者の様子を細やかに知らせている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1フロアに9名居られる入居者様一人ひとりが落ち着いて過ごせる居場所、空間作りを心掛けている。職員が寄添い、橋渡し役や時には壁になりながら入居者同士の程よい関係と距離を保てるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームと言う施設の性質上、退去後は、多くの方が入院先の病院で逝去されるため、最後のお見送り、お別れまでお付き合いをさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や過去の情報を踏まえた上で本人の思いや要望を汲み取り、家族とも相談しながらよりよい支援に繋げている。難聴や発語に難のある方も多く、言語、非言語を交えてコミュニケーションをとりご本人の気持ちを感じ取るよう心掛けている。	利用者が寛げる時間に思いや意向を聴くようにしている。難聴や発語困難な場合は、文字盤を使用したり、口の動きが見える位置で話すなど、本人本位に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に可能な限り本人、家族や関係者から情報を収集する。入居後も本人、家族、来訪者から『思い出話』を聞かせて頂き、それらを基に、本人のニーズに応える支援、思いに寄った支援に活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ること、したいこと、したくないこと、出来ないこと、好きなこと、嫌なことなどをしっかり把握した上で、表情や体動、バイタルサインなどの観察を怠らないことで、穏やかに安心して過ごせるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画に基づき、家族、担当職員、介護職員、看護職員などで検討を重ね、課題や問題の解決を図りケアの向上に取り組んでいる。また、ご本人の変化に応じて、計画の練り直しをしている。	入居時は情報を基に、ケアマネージャーが作成している。1ヶ月様子を見た後は、担当者の意見を基に職員間で共有し、確定している。その都度、家族と細やかに連携し、見直しも状況に応じて柔軟に実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様ごとに個別に介護日誌、健康管理日誌を細かく記録している。毎日の申し送り、スタッフミーティングなどで検証している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様にとっては「憩」が安心して暮らせる場所であり、信頼を寄せられる人が「職員」だと思っていただけよう、一人ひとりの「思い」に寄った支援が出来るよう柔軟な気持ちと姿勢での対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域、近隣の事業所との交流で培った繋がりの中で、カラオケ大会や、盆踊り、跳ね踊りなどのイベントへの参加やボランティアや慰問の受け入れ、移動図書館の利用など入居者様が安心して楽しめるよう幅広い支援を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、家族の希望を最優先している。その上で適切な医療を安心して受けられるよう提案、支援している。かかりつけ医との連携を保ち、ご本人、家族の要望に応じ、医療機関の紹介も行っている。	利用者、家族と十分話し合っ、希望するかかりつけ医となっている。協力医の往診が月に2回あるほか、看護師とは毎日連携し、緊急時にも対応できる体制を整えている。歯科についても、毎週往診があり、口腔ケアも実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内看護師と関係医療機関の担当看護師は常に連絡を密に保っている。必要に応じ、受診、往診、入院、退院など適切で迅速な対応が取れる体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設側が家族と医療機関との橋渡し役を担っている。必要に応じ入退院時は施設職員、管理職員が立会い家族をサポートしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に基本的な方針やリスクを想定した対応等の説明を行い、同意を得てからサービス提供の開始となる。入居者様の状況変化に応じ、その都度関係職員の意見を聞きながら、施設として出来ること、出来ないことを見極め、ご本人、家族に説明し、理解していただけるよう努めている。	利用開始時に、事業所として出来ること・出来ないことを丁寧に説明している。重度化した場合、家族・医師・事業所が十分、話し合っ、利用者・家族が納得できる支援となるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要なときに直ぐ手に取れるよう、緊急時の対応マニュアルを各部署、各人に配布している。年に1～2回救急救命訓練ややミーティング、日々の業務の中で幹部職員、看護職員の指導の下、実践力を磨いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	福山市の一斉防災訓練や町内の防災訓練、勉強会、消防競技大会など定期的かつ継続的に参加している。	職員が交代で、福山市や地域の防災訓練、消防協議会等に参加するとともに、事業所内でも災害に備えた研修をしている。事業所の避難訓練には、近隣の人も参加している。	夜間を想定した訓練を実施することで、職員の具体的な動きをシミュレーションすることも期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、「親しみやすい声掛けや態度」と「なれなれしい声掛けや態度」の区別を理解したうえで入居者様の尊厳を大切にし、プライバシーにも配慮した声掛けや対応するよう心掛けている。	トイレの介助時にはカーテンを使用したり、言葉のかけ方等について、ミーティング時に主任が中心となって話し合い、利用者一人ひとりの尊厳とプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が遠慮や心配をせず、思いや希望、要望を表したり決定することの出来やすい雰囲気と機会をより多く持っていただけるよう、個々のペースに合わせて働きかけるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりがそれぞれの思いとペースでゆったりと過ごして頂けるよう担当職員、それぞれに創意工夫をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿って理髪店や美容院など外出支援を行っている。3ヶ月毎にボランティアカットもある。特に女性入居者様には化粧品、衣類やアクセサリーなど本人、家族、職員で相談して安全に配慮しながら楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普通食、一口大、刻み、ごく刻み、ミキサーと一人ひとりの身体状況に合わせた食事の提供をしている。テーブル拭き、食器洗い、お盆拭き、下ごしらえ、買い物など個々に合わせて職員が寄添い対応している。	業者と提携し、昼と夜は一人ひとりの状況に応じた形態の食事を提供している。利用者も片付け等に積極的に参加している。月に一度は、利用者と一緒に買い物に行き、焼きそばやおやきを作る等の変化も持たせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師、看護師、家族と相談しながら食事の内容や水分の質、量などをそれぞれの好みに合わせて提供している。食器の色や形状も、好みや使いやすさ、安全に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	家族に説明し同意を得た上で歯科医師、歯科衛生士の指導のもと、一人ひとりの状態とペースに合わせ口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレには可動式の手摺りを設置し、希望される方、必要な方には居室内にポータブルトイレを設置しており、一人ひとりの身体状況、生活状況に対応している。入居者様の気持ちや身体の負担に配慮しながら、トイレでの排泄が行えるよう声掛けや誘導、介助、見守りの支援を行っている。	一人ひとりの様子を細やかに把握し、適切な声かけと誘導をすることで、昼間はほとんどの利用者がトイレで排泄している、夜間は利用者の状況に応じた対応となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼りすぎないように、医師、看護師、職員で話し合い、繊維質の多い物や、乳製品、などの食べ物、飲み物を工夫している。散歩やレクリエーションなど、楽しく身体を動かしていただけるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望、コンディションを重視し、入浴のスケジュールを柔軟に組んでいる。ゆっくりと安全に安心して入浴を楽しめるよう努めている。入浴中の事故、トラブル防止のため入浴時間帯は職員3人体制を厳守としている。	週に2~3回、午後を中心に実施しているが状況に応じて柔軟に対応している。床にマットを敷き詰めて車イスが入りやすしたり、簡易な手すりを設置したりするなど利用者の安全を第一とするケアに努めている。嫌がる人には、言葉かけの工夫等により対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様それぞれに、落ち着ける場所、お気に入りの場所があり、食後は居室やソファで午睡される方も多い。職員は転倒転落などの危険や体調の急変も想定しながら、必要に応じて声掛けや見守り、介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院からの服薬指示、情報は必ず書面で確認する。目的や方法に応じ、保管場所や取り扱いの取り決めをし、職員同士で声掛け確認をし、記録している。些細な変化でも気づいたら記録、報告し医師、看護師に相談、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前、午後の定時のおやつ以外にも好みに応じて飴や菓子果物などは用意している。個別の散歩や、買い物、風船バレーやカラオケなどのレクリエーションも多種用意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別、少人数で日向ぼっこや近隣への散歩や買い物など、職員や家族と外出の機会が多い。花見や、ばら祭り、盆踊り、はね踊り、菊花展などとても喜ばれている。	年々、介護度が上がり外出が難しくなる中、一人ひとりに応じた散歩やドライブ等の工夫をしている。交代でバラ祭りや菊花展等にも出かけたり、家族の協力で墓参りをしている人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で所持管理し、買い物を楽しまれる、品物を選び支払は職員に任せる、など一人ひとりに合わせて支援をしているが、「自分でお金を使う」事や「お金」への関心のない方が多くなった。逆に「お金」のことで不安になられる方も多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や関係先の事情を十分に配慮して、トラブルや混乱のない円滑なやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	脱衣場、トイレなど使用頻度が高い共有空間には見守りや介助の必要があるためカーテンやブラインドを配置し、プライバシーの保護に努めている。また、照明、室温、湿度、臭いにも気を配り快適な空間作りに努めている。季節ごとの装飾や展示を配し居心地の良い空間作りに努めている。	共用空間は明るく、温度や湿度、音等が適切に管理され空気の淀みもない。廊下の腰板を木調にして、落ち着きと懐かしさを醸している。壁には行事の写真や利用者の作品を飾り、生活感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	転倒や転落などの危険に配慮しソファやテーブルを配置する一方、入居者様一人ひとりが落ち着いて過ごせる居場所、安全に移動できる空間の確保に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人や家族の思い出の品や愛着のある物を置いている。その物にまつわる『思い出』をご本人や家族から伺い職員と一緒にその「思い出」に浸り共感することで、『居心地のよい居室作り』に役立っている	部屋は番地表示と、職員が作成した個別の名札がかけられている。各室、車イスで使用できる洗面台が整備され、利用者の利便性に配慮している。テレビや椅子、人形、習字の作品等が飾られ、その人らしい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	張り紙での視覚的な案内、安全マット、足元センサー、手摺りやポータブルトイレ、杖、歩行器、シルバーカー、車椅子など一人ひとりの身体状況、精神状態に配慮し、「自立支援」に繋げている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間を対象とした消防・防災訓練をしていない為、職員が夜間の対応に不安を持っている。	夜間を対象とした消防・防災訓練を実施することで、問題点や課題を明確にし、解決策を見だし、共有する事で、職員の不安を解消し、安全・安心な夜間の体制を構築する。	夜間を想定した消防訓練を実施する。消防署立会いとする。 ・第一次救急救命を含む防災の勉強会を実施する。	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。